

令和3年度（公社）砂防学会北海道支部研究発表会

支部会員の皆様の日頃の研究に関する情報交換を目的に、令和3年度（2021年度）研究発表会を開催しました。

日時：令和3年（2021年）11月12日（金）15：30～17：45

会場：北海道大学農学部総合研究棟1階 W109号教室

支部発表会にご参加いただき、またご発表やご議論いただきありがとうございました。多岐にわたる内容が詰まった発表会になり、新鮮な気持ちで参加できたことと存じます。本発表会では次のプログラムの話題提供があり、約40名の参加で行うことができました。

- ・ オープンな発表会で自由な意見交換ができること。
- ・ 発表者の実直な努力がうかがえること
- ・ 専門外の分野の知識を得られること。
- ・ 発表の練習として、温かく見守ってくれること

上記の基本的な成果を得ることができました。このような機会を多くの方に活用いただき、オープンな議論が活発に行われるように今後も運営していきます。

来年の支部発表会をひとつの目標に、会員みなさまの技術・研究の推進を図っていきます。



プログラム

15 : 30～15 : 35 支部長開会あいさつ

【前半 座長 桂真也（北海道大学）】

15 : 35～15 : 50 ○早川智也（日本工営株式会社）

日高幌内川河道閉塞発生時の土塊の移動について

15 : 50～16 : 05 ○李学強, 青木大輔, 塩野康浩（国土防災技術北海道株式会社）

平成28年十勝川大雨災害後の土砂移動状況～十勝川水系芽室川の例～

16 : 05～16 : 20 ○宮崎知与（Office.bit）

細粒分の移動・堆積を考慮した砂防ダム堆砂の再現検討

16 : 20～16 : 35 ○松永隆正（北海道大学）

融雪を考慮した広域水文指標に基づく地すべり要警戒地域・期間の設定

【前半 座長 笠井美青（北海道大学）】

16 : 35～16 : 50 ○井上涼子（明治コンサルタント株式会社）

盛土把握と国土地理院のGISデータの活用

16 : 50～17 : 05 鶴巻亮一(1), 松岡直基(1), 小倉勉(2), 藤吉康志(3)（(1)株式会社北

海道気象技術センター, (2)一般財団法人日本気象協会北海道支社, (3)北海道大学）

可搬型気象ドップラーレーダーを活用した土砂流発生場における降雨観測の研究

17 : 05～17 : 20 ○本間宏樹（応用地質株式会社）

十勝岳火山の1926年岩屑なだれの末端部における痕跡と流下機構

17 : 20～17 : 35 ○桂真也・松永隆正（北海道大学）

大規模地震により地すべり地の地下水位変動パターンが変化した事例

17 : 35～17 : 45 ○厚井高志（北海道大学）

2021年8月青森県下北北部災害時の小赤川流域における土砂・流木移動（速報）

17 : 45 閉会